

# コミュニティ・スクール津屋崎中学校 学校通信



令和5年3月24日  
文責 校長 清水光朗

津屋崎中学校のHPも  
ご覧ください。

## ◀ 津屋崎中学校 卒業式を行いました。 ▶

3月10日（金）津屋崎中学校の体育館で、「令和4年度 第76回 津屋崎中学校卒業証書授与式」を行いました。式では、来賓・卒業生保護者・生徒代表（生徒会役員17名）からの温かい拍手に包まれ、卒業生が担任の先生に続いて入場しました。卒業証書授与では、担任の先生からの呼名で、卒業生はしっかりと声で「はい」と答えてステージ中央に進み、「おめでとう」とかけられた言葉に、「ありがとうございます」などの言葉や礼で応え、一人一人卒業証書を受け取りました。式の間は、背筋を伸ばして、きちんと前を向き、式辞や告示等を聞いていました。在校生からの送辞では、現生徒会長の村瀬巧馬さんの、「常に私たちの前を歩き、お手本となってくださった先輩方の背中には、私たちにとってかけがえのないものを残してくださいました。私たちの目標となりました。練習の時から一人一人に優しく熱心に教えてくださったおかげで、本番はみんなが笑顔で最高のパフォーマンスをすることができました。全校生徒の心を一つにし、最高の思い出になりました。」などの感謝の言葉とこれからの進路に対しての応援の言葉に、卒業生は自分たちが最上級生として頑張ってきた一年間を振り返っていました。

卒業生代表の言葉（答辞）では、前生徒会長の伊東眺杏さんが、ステージ演台で立派に行いました。涙があふれ、言葉に詰まる場面もありましたが、感謝の気持ちを込めて答辞を伝えきった姿に、会場全体から大きな拍手が起こりました。校歌斉唱の後、最後に、卒業の歌として「旅立ちの日に」、「正解」(RADWIMPS)をステージひな壇で卒業生全員が合唱しました。笑顔や涙に溢れた合唱で、気持ちを込めて、一生懸命に歌う卒業生の姿は感動的でした。合唱後は、それぞれのクラスがクラスずつ担任の先生方へ、「感謝の言葉」を述べて退場しました。とても感動的な素晴らしい式でした。そして、教室では、担任の先生から、一人ひとりに、思い出を語りながら卒業証書が渡され、教壇の前に立って、生徒一人ひとりが、家族や先生、クラスの仲間に、感謝の言葉を述べていました。その後は、教室や中庭などで記念撮影が行われ、先生や友達との別れを惜しむ姿が見られました。

## ◀ 卒業生代表の言葉（答辞）：卒業生代表 伊東眺杏 ▶

暖かい春の日差しが照らすこの良き日に、私たち132名はこの津屋崎中学校を卒業します。

三年前の四月、私たちは新型コロナウイルスの影響で迎えるはずの入学式が行われず、自宅でいつ始まるかわからない中学校生活を待っていました。五月半ば、ようやく分散登校という形で中学校生活が始まりました。入学式はありませんでしたが、先生方が温かく迎えて下さり、不安が徐々になくなってきました。新型コロナウイルスの影響を受け続けた三年間でしたが、三年後の今、ウイルスの感染が心配される中ではありますが、無事卒業式を迎えられることにとっても感謝しています。校長先生をはじめ、ご来賓の皆様、諸先生方、PTAの皆様、保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。

一年生では、行事の中止や縮小、制限の多い中ではありましたが、先輩方の姿に憧れを抱きながら、中学校生活に慣れていきました。二年生では、修学旅行で、京都、兵庫、奈良を訪れました。コロナ禍で様々な行事が縮小された中でも、例年通りの修学旅行を行うことができ、日本の歴史や文化を肌で感じ、日ごろの授業とは全く違った形で学ぶことができました。京都や奈良の建造物は想像以上に迫力があり、その姿に圧倒させられました。コントやダンスなどの夜の会では、仲間との絆が深まり、たくさんの笑顔が見られ楽しい思い出となりました。みんなと過ごした三日間は忘れられない思い出です。

三年生、最上級生となり、様々なことに「最後」という言葉がつかまりました。「煌～輝け！笑顔きらめく四つの星」をテーマに、生徒一丸となって優勝を目指した体育祭。応援が飛び交い、笑顔があふれる、とても楽しい行事でした。また、リーダーとしてブロックを引っ張り、まとめることの大変さを学びました。「無限～創り出そう、新たな伝統～」をもとに行われた初めての文化祭。ダンス、コント、劇、映像、アートなど、三年生が主体となって学校全体を盛り上げていく姿は本当に素晴らしかったです。本番に向けて、練習や準備を重ね、お互いに協力し合い、団結力がさらに強くなりました。今までにない新たな伝統を作り上げ、達成感を得ることができました。

小学校の時より難易度やスピードが上がる中、一生懸命に取り組んだ毎日の学習、後輩や同級生と同じ一つの目標に向けて絆を深めた部活動、クラスを超えて努力を積み重ね、新たな伝統を作り上げてきた行事、様々な思いがよみがえっている今、感謝の気持ちを伝えたい人がたくさんいます。

時には厳しく、時には優しく接していただいた先生方、コロナ禍で行事が縮小された中、様々な形で私たち

を盛り上げてくださいました。何より印象に残っているのが、体育祭での「大縄戦隊跳レンジャー」です。先生方のおかげで、どの行事も忘れられない思い出となっています。また、進路選択のとき、一人一人に真剣に向き合ってくださいましたことにとっても感謝しています。私たち一人一人を大切に思い、ご指導くださり、本当にありがとうございました。

私たちの成長を一番そばで見守ってくれた家族。私が不安や悩みをかかえているとき、いつも相談にのってくれました。私のことを思ってくれているはずなのに、反抗的な態度をとってしまったごめんなさい。本当は感謝の気持ちでいっぱいだけど、いつも素直に感謝の気持ちを伝えることができませんでした。しかし、家族の支えが私の一番の心の支えになっていました。これからは迷惑をかけるかもしれないけれど、優しい瞳で見守ってください。私たちを産み、十五年間育ててくれてありがとう。私は家族がとっても大好きです。

そして、今まで共に歩んできたみんな。不安なことも多くあったけど、その中で、最高の思い出を作り上げてきました。この学年の明るさと団結力は、世界で一つだけの力を生み出し、私たちにしか作り上げることができない三年間になったと私は思います。私はみんなの明るさと優しさに何度も助けられました。私が引っ越してきたとき、すぐに声をかけてくれ、その笑顔に安心感を抱きました。そして今、この場に立っているのもみんなのおかげです。共に支え合い、困っている人がいたら、手を差し伸べ、楽しむときは大いに盛り上げ、周りを笑顔にしてくれる学年。この三年間、あつという間に過ぎてしまったけど、みんなが友達で本当に良かった。そして、津屋崎中学校のこの学年の生徒として過ごせたことにとっても満足しています。私はみんなのことにとっても大好きです。

これからは、一人一人がそれぞれの道を歩んでいきます。正直に言えば、もっとみんなと一緒にいたいという気持ちでいっぱい立ち止まってしまいそうになります。この先大きな壁にぶつかり、辛いこともたくさんあると思います。しかし、私はみんなと過ごした日々を思い出し、自信を持って進んでいこうと思います。「ONE TEAM」私たち卒業生は、この津屋崎中学校で、互いに信頼し、目標に向かって努力し、強い心で一つになった絆を、心の支えにして、力強く歩み出すことを誓います。

## ◀ 学校長式辞：校長 清水 光朗 ▶

～前略～私がみなさんの素晴らしさを、最初に感じたのは修学旅行当日、夜のレクリエーションでした。事前の準備は、大変だったと思います。リーダーの人たち、みんなの前で披露してくれた人たち、それを支え盛り上げるみんな、すべてが、とても温かく、笑いや歓声、拍手や笑顔が絶えない時間でした。そのエネルギーが、すごいと思うと同時に、みんなで成功させようとする、学年の明るいまとまりに、とても感動しました。

さて、修学旅行の時も耳にした、JR小倉駅の新幹線発車ベルは、アニメ映画「銀河鉄道999」の主題歌のメロディーになっています。この、SFアニメは主題歌とともに世界各国で愛される作品で、作者は、福岡県出身の漫画家、松本零士さんです。松本さんは、作品の多くで宇宙を描き、「人は狭いところで憎しみあつたりするのではなく、広い世界や未来へ目を向けて、夢や希望をもって突き進み、そこで人は、助けあって生きていかなければならない」と伝えています。また、若い世代に対して、次のような言葉を残してあります。「自分自身を大切に、それから、友達や世界中の人を大切に思いながら元気に頑張ってください。そして、未来は若者であるあなた方の胸の中に、既に実在しているんです。若者の夢とは、未来そのものです。」と。

卒業生の皆さん、これまで皆さんが培ってきた中学校生活は、素晴らしいものでした。みなさんには、みんな協力して新たなものを創り出す力があります。これまでの経験が、この先どんなに辛くても、くじけることのない礎となってみなさんを支えることでしょう。夢に向かって頑張ってください。～後略～

## 【写真：卒業式の様子】



## ◀ 退職や異動になる先生方の紹介 ▶

清水 光朗（校長）	異動	秋元 由香（教諭）	異動
國廣 信弥（教頭）	異動	富田 匡斐（教諭）	異動
占部 真澄（主幹教諭）	異動	上野 喜仁（教諭）	長期研修（1年間）
中野 美佳（教諭）	退職	吉村 麻希（市支援員）	退職

※ 今後の日程 4月7日（金）・始業式、12日（水）・入学式